カレッジ進学をあきらめ畑仕事をしていたジョシュア。5年前、現地訪問の元里親に再会、奨学金受領が決まり、この3月地域開発科を卒業しました！

ビラーン通信 97号

2019年4月25日発行

NPO法人ビラーンの医療と自立を支える会
（英文名略称・ＨＡＮＤＳ）
本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町516-11
TEL & FAX:045-500-9151
E-mail: hands-mindanao@nifty.com
http://hands-mindanao.a.la9.jp/
郵便振替口座　00210-5-72693
（加入者名）ビラーンの医療と自立を支える会

自立のための教育支援

副代表　高山好主

私は当会に関わって８年ほどになります。ホームページの改訂に協力するという事で参加しました。その中で教育支援をしていることを知りこちらにも協力しようと考えました。

私は高校・大学と奨学金を受けて卒業しました。しかも、県、市、育英会(現在の日本学生支援機構)と３機関からです。現在は全額返還したので今度は助ける側に回る必要があるだろうと考えた為です。私の子どもの頃の環境は相当に悪いものでした。村の中で電気が来ていないのは 3 軒あり私の家はその中の１軒でランプの生活です。また、雪が降ると障子の隙間から雪が吹き込むような建て付けの悪い家でした。ミンダナオの先住民族の家と大して変わらない状況でしょう。このような状況でも大学を出られたのは奨学金のおかげです。

当会の目的である「医療と自立」の一つである「自立」には教育が重要と思います。しかし、教育には費用が掛かるものです。貧しい地域では若いうちから働いて家計を助けることは美徳の一つです。（最近聞いた話ですが漫才師の内海桂子さんは 10 歳の時に家計を助けるために奉公に出たそうです。）

このような場合に奨学金があれば大助かりだと思います。特にミンダナオの先住民族のように恵まれていない環境下では多くの人に基礎教育、また、優秀な人には高等教育が必要と考えます。

高等教育を受けた人は地域住民のリーダーとなって「米百俵」のように地域の人に何百倍の貢献をしてもらいたいと思います。

教育の自立には 2 つのステップがあるように思います。第 1 ステップは教育を受けて、その知識で社会を発展させること、第 2 ステップは社会を発展させると同時に次の人材を出すために働くことでしょう。

外部から奨学金を受けたとしても第 2 ステップになればその後は独自に社会を発展させることが出来ます。

現在の私はそれほど困窮していないので出来る範囲で教育支援をしたいと思っています。そして、高等教育を受けた人が次のリーダーとなり社会を引っ張り、次の人材のために働いてもらいたいと考えています。

米百俵　(Wikipedia より)

北越戦争（戊辰戦争の一つ）で敗れた長岡藩は、財政が窮乏し、藩士たちはその日の食にも苦慮する状態であった。このため窮状を見かねた長岡藩の支藩三根山藩から明治３年５月に百俵の米が贈られることとなった。

藩士たちは、これで生活が少しでも楽になると喜んだが、藩の大参事小林虎三郎は、贈られた米を藩士に分け与えず、「百俵の米も、食えばたちまちなくなるが、教育にあてれば明日の一万、百万俵となる」と諭し、売却の上で学校設立の費用（学校設備の費用とも）とすることを決定する。この学校は士族によって建てられた学校であるが、一定の学力に達した庶民の入学も許可された。

この物語は「米百俵の精神」という言葉になり、内閣総理大臣だった小泉純一郎が、小泉内閣発足直後の国会の所信表明演説で引用されて有名になり、2001年の流行語大賞にも選ばれた。